

令和6年度 第4回 葵が丘小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年2月18日（火） 15時00分から16時30分まで
- 2 開催場所 葵が丘小学校 南校舎1階 多目的室
- 3 出席委員 小栗 則利、桐村 哲雄、見野 泰弘、若松 由希野、田村 都弥、伊藤 謙吾
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 鈴木 克隆（北部協働センター）
- 6 学校コーディネーター 西原 真知
- 7 学 校 島田 一孝（校長）、佐藤 明世（教頭）、芹澤 純子（CS担当職員）
村上 朝香（CSディレクター）
- 8 傍 聴 者 1名
- 9 会議録の作成者 CSディレクター 村上 朝香
- 10 議長の選出

小栗会長より、前回の会議上で年間を通して見野委員が務めることが提案され、全員異議なくこれを承認したため、予定通り見野委員が務めることになった。

11 協議事項

（1）学校関係者評価について

- ・ 児童、保護者、職員等の学校評価結果を受けて
- ・ 次年度運営の基本方針について
- ・ いじめ防止等のための基本方針について

（2）学校運営協議会の自己評価について

（3）夢育やらまいかCS加算分の報告

12 会議記録

司会の佐藤教頭から、委員総数6人のうち6人の出席があり、過半数を超えているため、会議が成立している旨の報告があった。

○ 熟議

（1）学校関係者評価について

議長の指示により、教務主任から別紙資料に基づき学校関係者評価についての説明、校長から別紙資料に基づき次年度運営の基本方針及び、いじめ防止等のための基本方針についての説明があり、委員から以下の発言があった。

◆ 体力低下について

- ・ 以前の会議で説明を受けたように、葵が丘小の児童は全国平均からすると、それほど低いわけではない。公園でも多くの児童が遊んでいる姿をよく見かける。あまり気にする必要はないのではないか。（小栗会長）
→ 葵が丘地域は他の地域に比べ、屋外で遊んでいる子供が多いと感じる。ただ、身体を動かすことが好きな児童とそうではない児童との二極化が進んでいるように思う。（島田校長）

- ・ 幼稚園では体力作りのために実施していることはあるか。(小栗会長)
 - 現在体力テストは実施していないが、子供たちの活動量を増やすため、遊具の配置を工夫している。(田村委員)
 - 遊具も昔に比べると、使用禁止になったものが多い。ますます子供の体力が低下するのではないか。(小栗会長)
- ・ 朝と下校時の校庭の使い方はどのようになっているのか。けが等の対応はどうしているのか。(田村委員)
 - 7:30~7:50の間に登校するようになっており、7:50までは校庭遊びを可としている。放課後は一度自宅に帰宅したあと、校庭で遊ぶことを許可している。(島田校長)
 - けがをした際は、職員室に子供が来ることがある。その場合、養護教諭が対応することもある。(佐藤教頭)
- ・ 20分休みや昼休みはどうか。校庭で遊んでいる子供が多いように感じるが、実際どうか。(見野委員)
 - 校庭で遊ぶ児童もいれば、教室や図書室で過ごす児童もいる。学年ごとにサッカーゴールを使用できる日が決まっているので、その日は校庭で遊ぶ子供が多い。(島田校長)
- ・ 体力を図るベースは何になるのか。時代とともにスポーツの種類も内容も変化している。何を基準として体力を測定するのか。(桐村副会長)
 - 小学校では年に一回体力テストがある。25年ほど前に種目が変わった。その種目を基準として体力を図っている。(芹澤先生)
 - 投力は低下している。(島田校長)
 - ボール投げの結果は、低学年は低い傾向にある。“跳ばず”という感覚が備わっていないように感じる。(芹澤先生)
 - 小さいころから投げるという行為をしていれば備わるように思うが、投げ方すら分からない子供が増えているのだろうか。(桐村副会長)
 - キャッチボールをしている児童をあまり見かけない。遊び方も変化しているように感じる。(小栗会長)
- ◆ 懇談会の参加率について
 - ・ 現在は共働き世帯も増えている。懇談会への参加は難しいのか。(小栗会長)
 - 前回の参観会の参加率は全体で8割。懇談会は低学年3割、中学年1.5割、高学年3割、全体で2.5割。参観会後は、子供と一緒に帰りたい保護者も多く、開催が困難な状況もある。(芹澤先生)
 - 実際、懇談会を中止した学校も多い。(島田校長)
 - ・ 先生方は懇談会で保護者と対話をしたいのか。(見野委員)
 - 保護者と教師が良い関係性を築いてほしいという思いがある。その方法が懇談会でなくても良いのだから、その手段の一つとして機能してほしいと感じる。(島田校長)
 - 先生や保護者と話をしたい親はたくさんいるように感じる。(伊藤委員)

→ 懇談会は必ず出席している。学校での子供の様子を知ることができるし、保護者とも知り合えるきっかけになるので、とても大切だと感じる。ただ参観会のあとに懇談会を実施すると低学年の保護者の参加は難しいように思う。

(西原コーディネーター)

・ 学校に興味を持っていただけるように教員も尽力していかなければならないと感じる。そのために何が必要か、ご意見をいただきたい。(佐藤教頭)

→ 低学年の保護者は我が子のことはもちろん、学校の雰囲気を知りたいと感じているのではないかと。また高学年は、中学入学に関する情報を知りたい保護者が多いと思う。中学年が少ないのではないかと。各学年の状況に合わせた参観・懇談会を実施してはどうか。(小栗会長)

→ 実際、中学年の参加率が低い。親子で話を聞くような機会など、子供とともに参加できるような内容を考えていきたい。(芹澤先生)

→ 今年度は1年生の保護者向けに家庭教育講座を3回実施した。そのような講座を中学年対象に実施していけたらと思う。(島田校長)

→ 家庭教育講座だが、大変充実した内容だった。参加者が少なく残念に感じた。(見野委員)

→ 教育講座の動画配信をしてはどうか。(鈴木オブザーバー)

→ 告知をもう少し頻繁に実施したら良かったのではないかと。さくら連絡網等で案内されてはいるが、情報を逃してしまう保護者も多くいる。紙面や直前での再告知をすることで参加率が高まると思う。また、1年生の保護者だけでなく全保護者に案内を出してはどうか。(西原コーディネーター)

→ 昨年度の参加者の感想を案内に載せたら、参加率が高まるのではないかと。告知の工夫も必要だと感じる。(田村委員)

(2) 学校運営協議会の自己評価

議長の指示により、会長と教頭から別紙資料に基づき、学校運営協議会の自己評価について説明があった。

(3) 夢育やらまいかC S加算分の報告について

議長の指示により、教頭から夢育やらまいかC S加算分の報告について説明があった。

協議の結果、全員異議なくこれに賛同した。

◇ その他報告事項等

・ 学校支援コーディネーターから活動の報告があった。

◇ その他連絡事項等

・ 司会から、来年度の新委員と学校運営協議会の開催日時について説明があった。